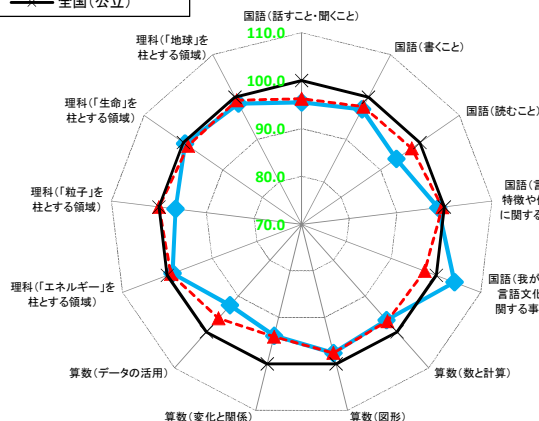
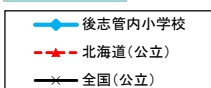


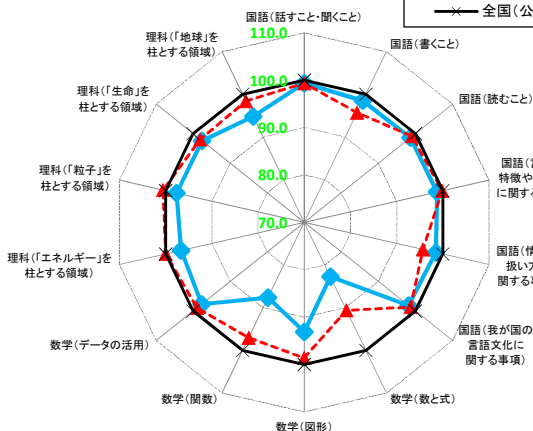
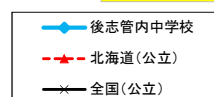
■後志管内の状況及び学力向上策（小学校数:54校、児童数:1171人）（中学校数:36校、生徒数:1190人）

小学校【教科全体の状況】



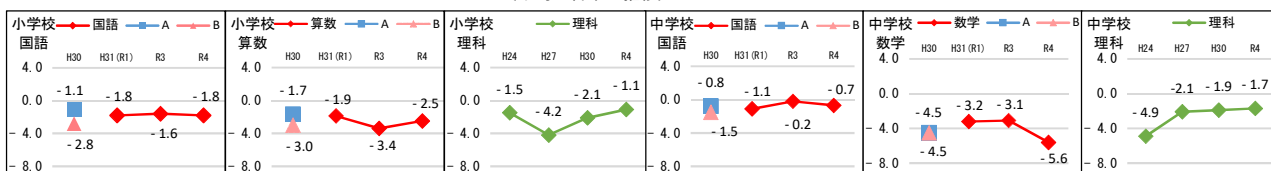
平均正答率	小学校国語	小学校算数	小学校理科	中学校国語	中学校数学	中学校理科
後志管内	64[63.8]	61[60.7]	62[62.2]	68[68.3]	46[45.8]	48[47.6]
全国	66[65.6]	63[63.2]	63[63.3]	69[69.0]	51[51.4]	49[49.3]

中学校



教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び管内の状況をレーダーチャートで示したもの（管内の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

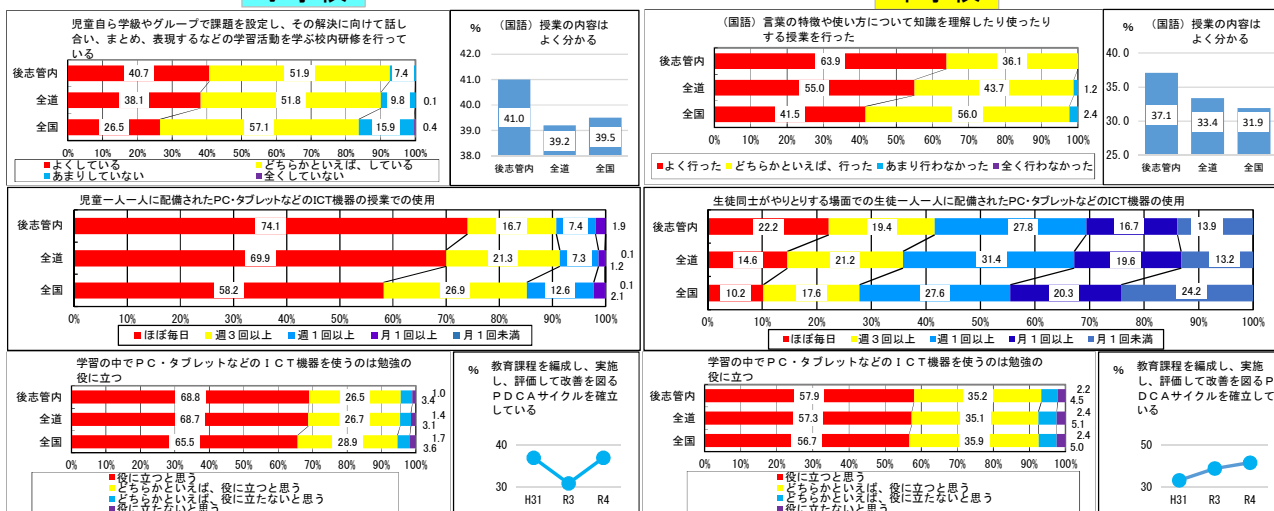
【平均正答率の推移】「管内の平均正答率－全国（公立）の平均正答率」の経年変化



【質問紙の状況】

小学校

中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

中学校

管内の多くの小学校において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行ったことにより、授業改善が図られ、児童は国語の授業の内容がよく分かるようになり、我が国の言語文化に関する事項が全国及び全道を上回ったと考えられる。

管内の多くの小学校において、一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を積極的に活用したことにより、児童のICT機器の活用を通して課題を解決する経験が積み重ねられ、学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

管内の多くの小・中学校において、学力向上ロードマップ（後志版）などを活用した組織的な授業改善の取組を推進したことにより、児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図るPDCAサイクルを確立したと回答した小・中学校の割合が増加したと考えられる。

管内の多くの中学校において、国語の指導として、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりする授業を行ったことにより、授業改善が図られ、国語の授業の内容はよく分かったと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

管内の多くの中学校において、生徒同士がやりとりする場面で生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を積極的に活用したことにより、協働的な学びが充実し、学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【後志管内の学力向上策】については、次ページの学力向上の取組を参照ください。

後志管内における学力向上の取組

1. 管内課題と重点的な改善策

(1) 実効性の高い検証改善サイクルの確立

- 学力向上の検証改善サイクルが確立するよう重点的に取り組む必要がある。
- 短期間でのゴールイメージを明確にし、各種調査結果等の活用により効果の検証を確実に行うなど、検証改善サイクルを短期化・具体化・連続化する。
- ミドルリーダーの役割の明確化と全教職員の課題解決への参画意識を高める協働体制組織の整備や柔軟な見直しを行う。

(2) 学習者主体の視点からの授業改善

- 端末の効果的な活用やねらいに応じた学習展開など、質の向上を図る必要がある。
- 子どもの学習内容の定着状況を客観的に把握し、指導方法や教材等の工夫を行うなど「個別最適な学び」を重視した授業づくりを推進する。
- 適切な場面でのICTの活用により、多様な考え方に触れ、よりよい学びを生み出す「協働的な学び」を重視した授業づくりを推進する。
- 全ての学習の基盤となる、条件に応じて適切に話したり書いたりするなどの言語能力を育成する機会を保障する。

2. 具体的な取組

月	(1) 実効性の高い検証改善サイクルの確立	(2) 学習者主体の視点からの授業改善
10	各種指定事業における継続的な指導助言	各種指定事業における継続的な指導助言
11	義務教育指導監による学校経営サポート ・校長への学校経営指導訪問 ・メール等による個別の学校経営相談 ・校長や教頭を対象とした講話・助言	指導主事による授業づくりサポート ・スクールコンサルティング(Web面談) ・各学校の課題に応じた校内研修への支援 ・初任段階層の多い学校等への複数回訪問など重点的支援
12	義務教育指導監による市町村の教育のサポート ・市町村単位の校長会議や教頭会議に出向いた指導助言	後志管内中学校数学授業改善研修会 ShiriBeshi Learning Boxプロジェクト「学力向上オンラインセッション②」
1		ShiriBeshi Learning Boxプロジェクト「ICT活用オンラインセッション」
2	組織力強化会議③（教育局独自）	
3	中堅教諭等資質向上研修・初任段階教員研修等における指導助言 ・教諭を対象とした組織的な授業改善に向けた指導助言	

3. 取組の評価

(1) 実効性の高い検証改善サイクルの確立 ①各種調査結果等に基づいた教育課程の改善を図るPDCAサイクルの確立（よくしている） ・現状 小…30.9% 中…38.9% ・目標 小…50% 中…50% ②学力向上ロードマップ等の活用や工夫による教職員の役割の明確化及び参画意識の高揚 ・現状 新規項目のためデータなし ・目標 小…100% 中…100% ※①②について、第3回組織力強化会議で独自調査	(2) 学習者主体の視点からの授業改善 ①適切な場面でのICTの活用 ・現状 新規項目のためデータなし ・目標 小…100% 中…100% ②言語能力を育成する機会の保障 ・現状 新規項目のためデータなし ・目標 小…100% 中…100% ※①②について、第3回組織力強化会議で独自調査
--	--

4. 改善点

(1) 実効性の高い検証改善サイクルの確立 □第2回組織力強化会議で演習・協議を行ったことを基に、全国学力・学習状況調査の分析結果から自校の課題を明確化するとともに、自校の学力向上ロードマップ等を活用して、取組の重点化、目標の設定、取組内容の具体化を図り、これらの内容を共有しながら確実に検証・改善を行う必要がある。	(2) 学習者主体の視点からの授業改善 □ICTを適切な場面で活用するための単元構想づくりを意識するとともに、ICTを活用した学びを成立させるための土台づくりを進めていく必要がある。 □記述する活動において、「時間」「字数」「条件」などを意識させた活動を保障する必要がある。
--	--